

2-4 環境の現状と課題

2-4-1 動植物の生息・生育環境等

- 天塩川に生息するサクラマスやトミヨ類などの魚類の生息に適した河川環境の保全と整備が必要である。
- 天塩川流域にはサケやサクラマスの産卵床が存在し、その保全が求められている。
- 下流部の汽水域に生息するシジミなど、生物の多様な生息・生育環境を保全することが必要である。
- 河道内には良好な自然環境を有する河畔林が連続的に存在し、治水上の支障を見極めつつ可能な限りその保全を図ることが必要である。
- サロベツ川流域は、最北・最大の高層湿原を有するとともに、希少な生物の生息地であり、昭和49年に利尻・礼文・サロベツ国立公園の区域指定を受けている。



図 2-4-2 サロベツ湿原



図 2-4-3 恩根内のテッシ

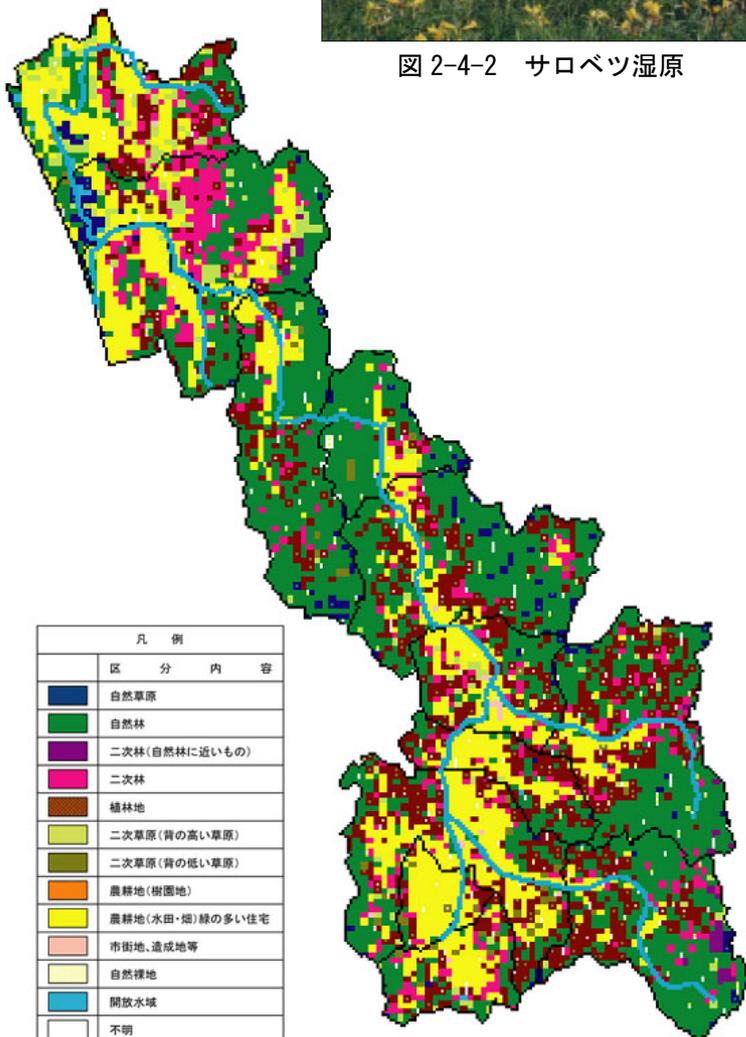


図 2-4-1 流域の植生分布図(環境省ホームページをもとに作成)



図 2-4-4 中流部に連続する河畔林



図 2-4-5 魚類・鳥類の生息環境(河畔林)



図 2-4-6 サケの産卵床(名寄市)

- 直轄区間では 11 箇所の頭首工・堰が点在し、5 箇所で魚道の設置が行われているがさらなる整備が必要である。
- 河口～KP157.5km までは頭首工・堰等の河川横断工作物がなく、中下流部に至るまでは魚類の遡上環境として良好な状況にある。
- 上流部の九十九橋付近において、流況が悪い場合一時的に無水区間が生じている。



図 2-4-7 天塩川(直轄区間)の河川横断工作物

表 2-4-1 天塩川(直轄区間)の河川横断工作物と魚道の設置状況

	施設名	位置 (KP)	構造	取水目的	設置年	魚道	備考
天塩川	① 風連 20 線堰	157.5	可動	かんがい	S48	×	
	② 天塩川第 2 頭首工	169.4	可動	かんがい	H5	●	
	③ 下士別頭首工	178.1	可動	かんがい	S43	×	
	④ 天塩川第 1 頭首工	182.8	可動	かんがい	S61	●	
	⑤ 剣和頭首工	190.9	可動	かんがい	S46	×	
	⑥ 士別川頭首工	195.8	可動	かんがい	S46	×	
	⑦ 東士別頭首工	203.9	可動	かんがい	S46	×	
名寄川	⑧ 真敷別頭首工	7.0	可動	上水・工水 かんがい	S61	●	
	⑨ 上名寄頭首工	15.1	可動	かんがい	S49	●	
	⑩ 名寄川頭首工	24.9	可動	かんがい	S44	●	
	⑪ 川向頭首工	27.8	固定	かんがい	T14	×	



図 2-4-8 平常時と濁水時の河川状況

2-4-2 水辺の特殊な環境

- 天塩川の名の由来となったテッシと称する築のような形状で川を横断している岩が多く存在し、特徴的な自然景観を形成している。
- テッシはアオサギ等の鳥類の採餌場となっているほか、テッシ直下流には大きな淵が形成され、魚類の生息場所として重要な役割を果たしている。
- テッシはカヌー下りにおける美しい景観として親しまれるとともに、絶好のスリルを味わえるポイントとしても知られている。
- 捷水路の開削に伴い出現した旧川は、水質の改善や環境の復元が求められている。

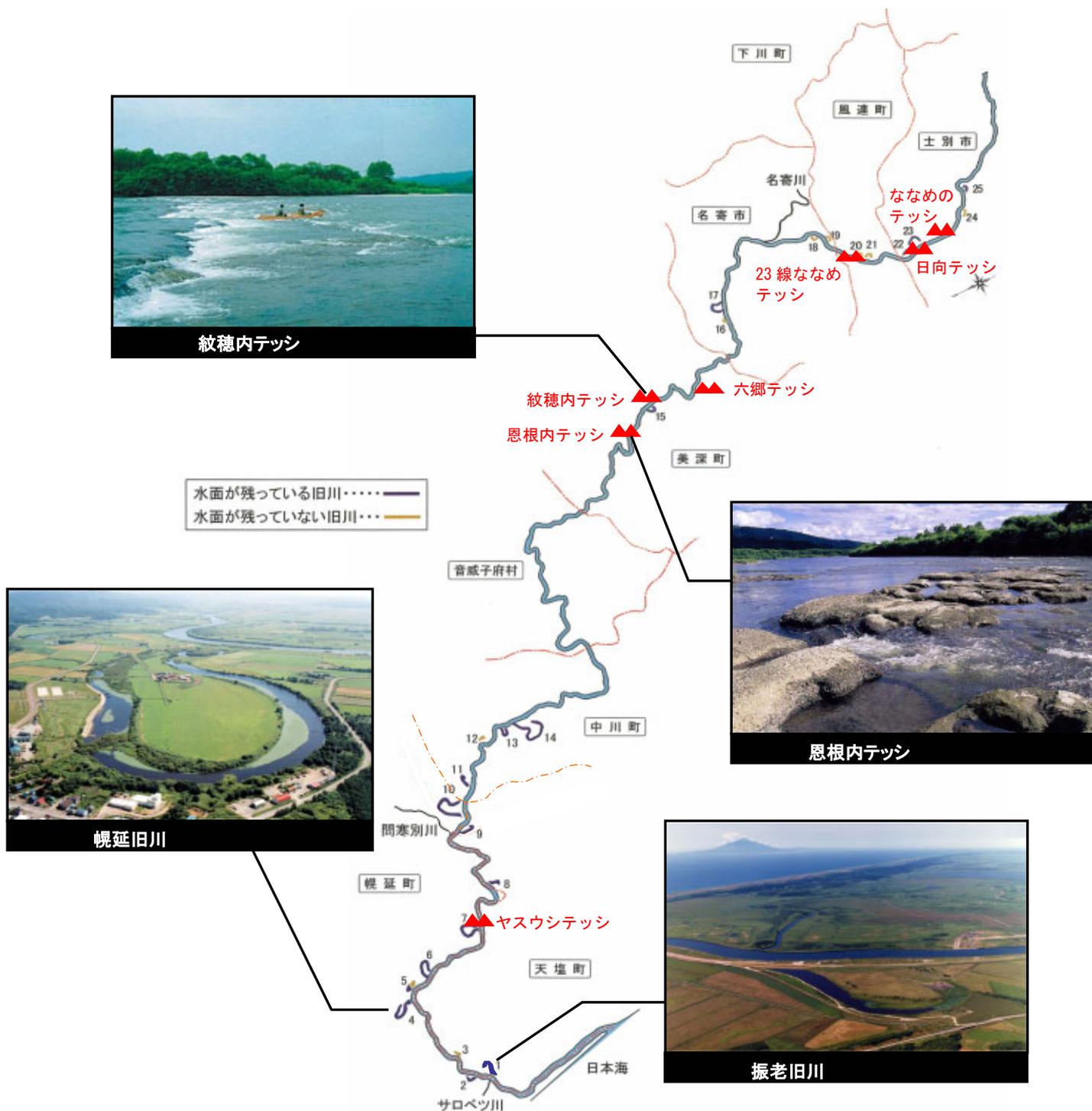


図 2-4-9 テッシ及び旧川の位置

2-4-3 景観と親水性

- 現在、現況河川空間の特性に応じた水辺の利用がなされているが、住民からはテッシや連続した河畔林など天塩川の良好な河川環境に調和した更なる親水空間の整備が望まれている。
- 親水空間の整備の要望と併せて、現況の生物の生息・生育環境となっている豊かな水辺の自然景観を保全することも要望されている。
- カヌー利用が特に盛んであり、ウォータースポーツに適した環境が望まれている。

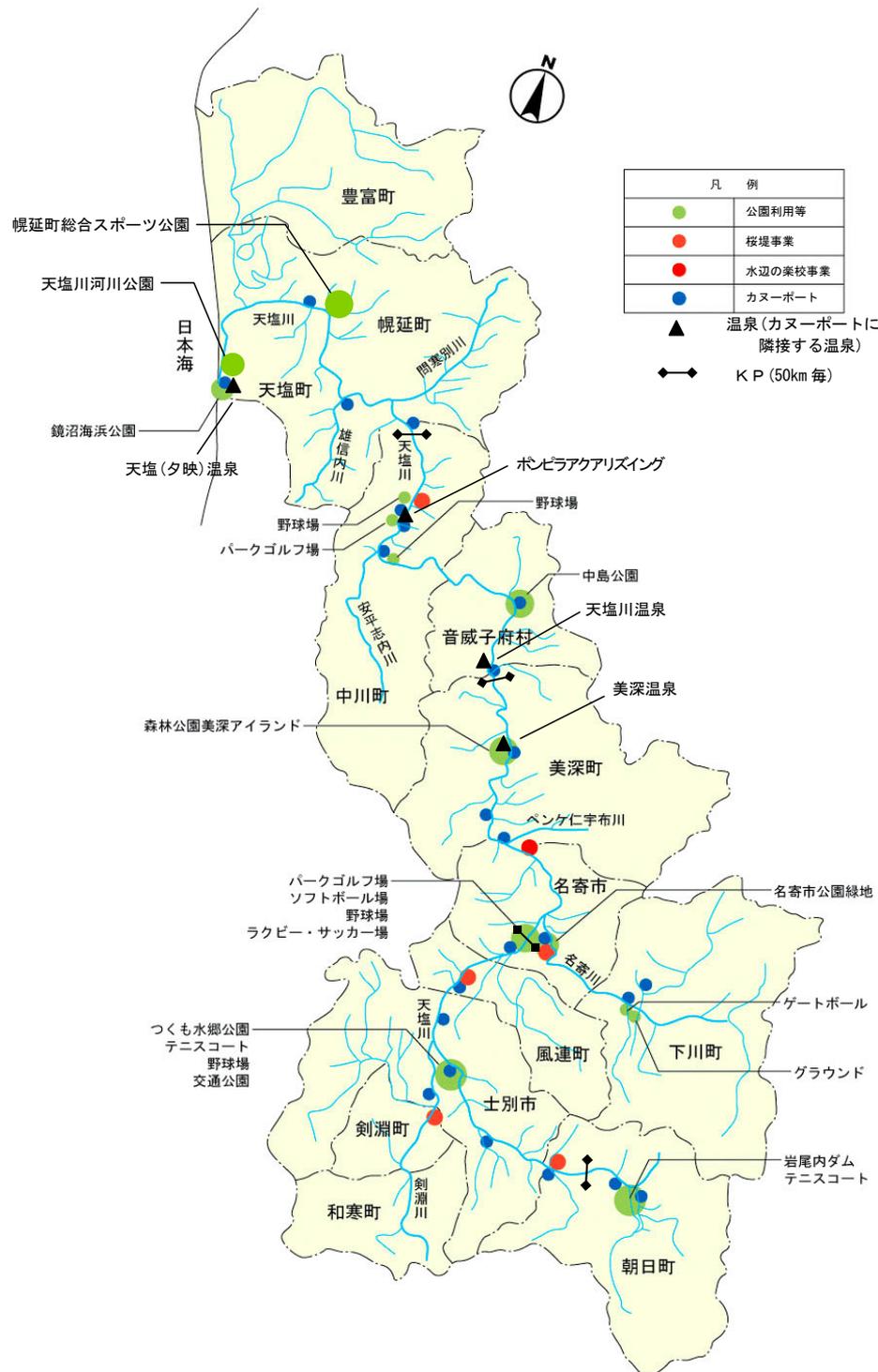


図 2-4-10 天塩川の河川空間における主な利用施設